

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297201002		
法人名	医療法人社団 光久会		
事業所名	グループホームふなぎら (さくらユニット)		
所在地	静岡県浜松市天竜区船明436		
自己評価作成日	令和2年7月30日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2297201002-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 8月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を目標に掲げて活動をしております。入居者様ごとに様々な人生を歩まれてきたと思います。専業主婦だった方、学校の先生だった方、大工さんだった方。その方の人生からヒントを頂戴して、その方たちの得意な事、こだわっている事、好きな事等を探り、自宅と比べ窮屈な入居生活を少しでもご本人らしく過ごしていただければと考えております。また、コロナの中で全然出来ておりませんが、地域に開かれたグループホームになるよう、様々な取り組みをしたいと考えております。介護・福祉というフィルターを通すと、自分たちが(職員達)がされたら絶対嫌な事が、介護・福祉の現場で普通に行われていることに疑問を持ち、極力そうならない様に注意しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな環境で整然と区画整理された地域にあり、陽当りもよく、2ユニット平屋の建物である。開設1年で建物も新しく施設内も壁、建具、椅子、ソファ等落ちついた色合いで統一されている。利用者が散歩や畑での野菜づくり、花壇の花植え、梅干し作り、ぬか漬、切り干し大根作り、干し柿作り等持っている能力を活かしながら、その人らしく過ごせ、今まで行ってきた日常が継続できるような支援に努めている。利用者が一緒に出かけられるように9人乗りのワゴン車が常備されている。また、服薬管理ロボット、眠りスキャン等の新しい機器を取り入れ職員の負担を減らし、休暇を取りやすくし、子連れ出勤可能等働きやすい環境作りを模索している。調査当日は食事の配膳に積極的に取り組んでいる、ミシンをふんでいる、職員の子どもと遊んでいる利用者の姿が見られた。医療法人で培ってきた経験をふまえ利用者の個々の思いを大切に自立支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は「自立支援の実践」です。個々の職員の意識、理解度に差があるのが事実です。現在はその意識統一をしています。	事業所の理念「自立支援の実践」を事業開始前に職員に時間をかけて説明している。パーソン・センタードケアについて書かれた書籍を職員全員に配布して、共有、実践、研修に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年の一月までは地域の防災訓練に参加したり、老人クラブの活動に参加したり、地域用に施設内覧会を開いたりしていましたが、それ以降コロナの影響で全然出来なくなりました。	地区自治会に加入し、地域の防災訓練には利用者と職員が参加している。地区の老人クラブの活動にも出かけており、施設の近くに畑を作り、利用者も楽しみながら世話をしているが、水やり、草取り、肥料やり等ボランティアで近隣住民の方が手伝ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自体が認知症の人の理解や支援で日々模索している状態なので、地域には発信出来ていません。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議自体が書面開催になっています。まずは通常の面会が出来るような状況になり、ご家族に事業所の活動を見ていただきたいと思えます。	市のグループホーム担当者から開催の要請を受け、他のグループホーム施設長に来てもらい2月に実施した。その後はコロナの影響で書面開催になっている。会議録は家族に郵送し、職員も閲覧し、市にはメールで送っている。家族に参加してもらえるように土曜日に何回か開催予定である。	自治会に加入しているの、積極的に地域に呼びかけ、地域包括支援センターとも連携して多くの参加者が集まるような工夫に期待します。周辺地域に施設を認知してもらい、サービス向上にも活かせるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より浜松市介護保険課とは質問や相談を常に早目早目している。協力関係は築けていると思われます。	グループホーム開設にあたり、市の担当者とは顔を合わせる機会が多く、質問や相談、意見交換が常に行われている。地域包括支援センターとはこれから関係を構築する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として学ぶ機会は設けています。現在は各事業所をZOOMで繋げて勉強会を中継する取り組みを行っている最中です。最終的にはいつでもどこでも勉強会の様子を見て、学ぶ状況を整備したいと思っております。玄関は日中は施錠しておりません。	マニュアルは整備されており、法人の身体拘束委員会に属し、管理者が会議に出席している。研修も法人で開催され、管理者が参加し、内容や資料は職員に説明して、情報共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として学ぶ機会は設けていますが、事業所として勉強会等しておりません。今後の検討材料にしたいと思います。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として学ぶ機会は設けていますが、事業所として勉強会等しておりません。今後の検討材料にしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者、施設ケアマネ二名で対応し、不安や疑問に丁寧に回答するよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	形だけの運営推進会議でなく、家族・利用者・外部見識者とじっくり意見できるような運営推進会議を行いたいです。	利用者一人一人に職員が担当制となり、全職員で全利用者の事を理解するように職員をユニットごとに決めず流動的に配置している。今後は職員と話し合っ方法を決めていくため、積極的に家族にも意見を求め、声かけをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案はとても多く助かっている。特別な機会を設けなくても業務内で意見・提案を聞ける環境があるので、継続したいと思います。	利用者のケアについての職員の提案は多くあり、絵の具を持ってきたり、100円均一のグッズを上手く利用した工夫をしている。利用者の誕生日会などの楽しめる企画もあり、管理者へ職員が提案しやすい関係性が築けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今月より法人としてキャリアアップ制度を導入しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月二回内部研修を行っている。外部研修の宣伝等ある場合は希望者を募り、積極的に行ってもらっています。シフト調整や資金援助も行っております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナの関係で交流・見学は出来ておりません。去年代表者自ら他施設に見学に行き、その後職員を見学する機会がありました。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とにかく安心してもらおうという気持ちで接してもらっています。ここにはタイムスケジュールに則った「業務」はあまりありません。その分入居者様とのコミュニケーションの時間は取れていると思います		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して頂いた後、入居者様のことでわからない事が多々あるので、積極的にご家族にコンタクトをとって情報収集をしております。その際、御家族との関係性が構築されてくると考えております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やれることは最大限やっているつもりですが、ご本人にフィットする支援の見極めがどれくらい出来ているのか、今後の検討材料だと考えております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ていない職員もいますが、自立の支援が使命なのでご自分で出来ることは極力して頂きます。そのため暮らしを共にする者どころか入居者様が先生、職員が生徒という場面に頻繁に遭遇します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ごとに様々な事情があるので均一にはなりません。入居者様、御家族、と共に悩み、考えるスタンスは持っているとします。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	管理者の判断でドライブに行き入居者様のご自宅にいたり、地域にたびたび行っています。	墓まいりや馴染みの美容院へは家族に関わってもらえるようお願いしている。帰宅願望のある利用者には散歩に連れ出したり、時々、自宅までドライブに連れ出し気持ちを落ち着かせるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状により暴言を吐いてしまったり、誤解を招くような発言をしてしまう方もいますが、そういう方になるべく孤立しないよう職員達が奮闘しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから法人関連施設に移動した入居者様がいますが、移動先の施設に行き顔をみたり、御家族に様子を報告したりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いを面接で希望や意向を聞いています。ご家族にも話を伺っています。ご本人の表情を見て安心できる時間の過ごし方や好きな事、得意な事等を検討しプランニングにいかしている	入居前に利用者や家族から時間をかけて聞き取りを行っている。日常生活の中でも注意深く本人の希望を聞いて希望が叶うような支援をしている。本人の意向に沿って、今まで行ってきたことが継続できるような環境づくりを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問にて、入居者様、ご家族に伺ったり、「暮らしのシート」という独自のフォーマットをご家族様に記入して頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎ時に入居者様の変化と対応を管理者、ケアマネが参加し話し合います。引き継ぎ内容はケース及びノートに記録し共有します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員の情報やご本人・ご家族の希望をききケアマネが立案し、ご家族に提示、承諾を得ています。また訪問看護師や主治医の見解も参考にしてプランに行かしています。	職員が日頃記録しているユニットノートや個人ノートを参考に医師、訪問看護師の意見を聞きながら利用者と家族の意見もふまえ、ケアマネジャーが3ヶ月に1度見直し介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫をケース記録として入力しているものの、分析し次のプランへの情報として生かすことが出来ないのが現状です。情報の共有もまだまだ改善の余地があります。一番の改善点としてとらえています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談して、外出・外泊をしたりしています。またコロナ禍でビデオ通話を使っての面会や屋外による面会を実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防訓練やイキイキサロンに参加しており、将来的には地域清掃や神社・公園の美化活動が出来るような体制づくりを目指したいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の診療所をかかりつけ医としています。通院援助をし、日頃の様子を職員が伝えます。ご家族が希望される他科受診についてはご家族にご協力頂いています。	ほとんどの利用者が法人の診療所をかかりつけ医とし、通院援助をしている。入居前の医療機関を継続し家族が対応している方もいる。他科受診は家族対応で協力してもらっている。9月から訪問歯科が入り、希望者が受診できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回(一回2時間程度)訪問看護ステーションに入ってもらっております。職員からの気になる入居者様の相談を受けて頂き、様々なアドバイスや受診の必要性の有無の助言を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院に情報提供をしております。治療が円滑に行われるよう、管理者・ケアマネが協力してご家族と病院関係者との調整を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設で出来る医療的ケアな終末期の対応について説明し、家族の意向を確認しております。今現在ははまだ例がありませんが、かかりつけ医の往診や訪問看護師との連携は取れる状態にあります。	入居前に重度化、終末期で施設でできるケアについて説明をし、家族の意向を確認している。かかりつけ医、訪問看護師との連携は取れる状態なので看取りも行う予定である。職員とも話し合い、研修も予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応の研修は行ったが定期的には出来ていません。現状としては昼夜を問わず管理者に連絡し指示を仰いでいる状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の各地の水害を見ていると、避難方法の全面的な見直しが必要だと思います。地域との協力体制の構築もまだ出来ていません。	法人で防災訓練の計画をたて、火災を想定して年に2回実施している。消防署、消防設備会社の担当者も参加し、指導してくれた。備蓄は賞味期限を確認して確保している。	備蓄のリストを作成し、訓練は夜間、季節、地震、水害と様々な想定をして地域と協力体制を作り、実施される事を望みます。職員間連絡訓練等必要と思われる訓練を検討するように期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソン・センタードケアを軸に職員教育をしています。ですがやはり職員ごとにその理解や実践にばらつきがあります。ZOOMを使った研修を積極的にこない、言葉掛けが如何に重要かということを伝えたいと思います。	利用者ができることは進んで行ってもらえるように「～していただけませんか。」という声かけや利用者の言動に称賛したり、感謝の声かけ等を日常的に職員ができるようにしている。	コロナ禍で全体研修ができなくても、ユニットごとや個別指導で、目指しているパーソン・センタードケアの内容をより理解し実践できるように工夫されるよう期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの提案もありますが、入居者様との会話して色々なニーズを聞き、ご本人に決めて頂けるよう努めております。聞きっぱなしでなんの実現もされないということにならないよう気を付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	三食のおおよその時間は決まっています。それ以外は決まっておりません。比較的入居者様のペースで過ごして頂いているのではと思っております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	母の日、クリスマス会、敬老会等でご家族からプレゼントされた衣服や小物を身に付けてもらったり、職員が入居者様にマニキュアを塗って差し上げたりします。もちろん決めるのはご本人です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は盛り付けから調理はしておりません(ご飯と汁のみ)。準備・片付けを入居者様が出来る範囲でやって頂いております。時には我慢できずつまみ食いする方も。それもよしと楽しくやっております。	セントラルキッチンよりカロリー、栄養計算された食事が配食される。ご飯と味噌汁は事業所で作っており、盛り付けやテーブル拭き、食器洗い、片付け等利用者ができる範囲で行なっている。畑で取れた野菜を使ったり、ぬか漬けや梅干し、切り干し大根、干し柿作り、誕生会のおやつ作りと楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食後チェックしております。散歩や活動ばひと段落するたび水分補給をお願いしております。また法人内の管理栄養士に食形態やカロリー数の相談をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	大きな課題の一つです。 現在自室にて歯磨きをしている入居者様が多いので観察の仕方の工夫が必要です。 現在は訪問歯科に入ってもらい指導して頂いております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室ごとにトイレはなく、ユニットごとに3箇所トイレがございます。トイレに行くにも一歩でも歩いてもらいたいとの思いです。日常の活動量をあげて腸の活動を活発化できないかと考えております。一人でも多くの方に布パンツで過ごして頂けるよう模索しております。	利用者一人一人の排泄のパターンを把握してトイレへ誘導している。現在4人の利用者が布パンツであるが、排せつの自立を支援して、一人でも多くの方に布パンツで過ごしてもらえよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯を炊くときに毎回麦を入れております。管理栄養士と食物繊維を摂取できるよう相談しております。ですが半数前後の入居者様が下剤をつかっているのが現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に予定されている入浴日には強制的にでも入浴をさせるようなことはしていません。拒否が強い入居者様には時間をずらして2度、3度と声掛けをしております。諦めることなく関係性の構築を続けます。	脱衣室、浴室の広さはゆとりがあり、整理整頓ができています。すみれユニットの浴室はリフト浴ができる準備がある。週に2回午後入浴を支援しているが午前中に希望しても対応できるようにしており、ゆったりリラックスして楽しめるよう個別支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンという仕組みを導入しており、夜間帯の1、2時間ごとの見守りはしておりません。安眠を確保する取り組みと考えております。また食後はソファでうたた寝をされてる方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携して服薬管理ロボットという仕組みを導入しております。薬剤師が薬のセットをするので、職員の精神的な負担を軽減できていると考えております。職員はお薬手帳を見て1人1人の薬情報を把握しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今現在女性の入居者様のみのせいか、酒やたばこを欲する方はおりませんが、当施設は酒もたばこも禁止していません。また可能な限り日常の家事に参加して頂いております。また借りている畑の収穫物を使って料理してもらい職員も含めご相伴にあずかっています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩は積極的に行っております。入居者様の様子を見て管理者の判断で、ご自宅までドライブにいき、ストレスを発散してもらっています。散歩中こちらから積極的に挨拶をしているので、徐々に地域の方に認知されてきた気がします。	日常的に施設付近を散歩したり、畑に出かけたりしている。なるべく多くの利用者が一緒に出かけられるように9人乗りのワゴン車を準備している。この春は近くのダムを桜を見に出かけた。帰宅願望のある利用者に対して時々自宅までドライブに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの財布をみなさんお持ちなので、近くのドラッグストアにいき、好きなお菓子を買ったりしてしていました。現在はコロナの関係で買い物は中止しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話をしてもらっており、最近ではLINEをつかったビデオ通話面会も。自分で作った手芸品を手紙を添えてご家族に送る方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに建具・家具の色が違います。2ユニットのリビングとウッドデッキを合わせてひとつもリビングと考えております。出入りは自由です。日中はBGMを流しており、またアロマディフューザーで香りも癒しにあればと思っております。	ユニットに合わせて、建具や家具、カーテンの色をコーディネートしている。ユニットの間にウッドデッキがあり、洗濯物や布団を干したり夕涼みや日光浴の場、家族会でバーベキューをする等楽しみの場所に利用している。子連れ出勤利用者のためのベビーベッドやおもちゃ、利用者が使うミシンがある。壁には利用者の貼り絵、塗り絵が掲示されている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きめのリビングテーブルがある一方、一人用に出来る小さ目なテーブルが3台ずつあります。一人で作業に集中したい方は一人用を使ったり、柔軟に対応しております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェストは施設として用意しました。ベッドはレンタルを使うかたが多いですが、これまでの生活が布団の方は持ち込んで使っています。	チェストの上には家族の写真や大切にされている人形やプレゼントされたぬいぐるみが飾られている。チェストは好きな位置に設置できるようになっている。部屋にいたことが好きな利用者の居室には大きなテレビが置かれていて、時々職員が声かけをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別な建物内部となつてはおりませんが、入居者様の状況を見て、貼紙をはってご本人の部屋を認識してもらったり、ここがトイレだと分かるようにしております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297201002		
法人名	医療法人社団 光久会		
事業所名	グループホームふなぎら (すみれユニット)		
所在地	静岡県浜松市天竜区船明436		
自己評価作成日	令和2年7月30日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を目標に掲げて活動をしております。入居者様ごとに様々な人生を歩まれてきたと思います。専業主婦だった方、学校の先生だった方、大工さんだった方。その方の人生からヒントを頂戴して、その方たちの得意な事、こだわっている事、好きな事等を探り、自宅と比べ窮屈な入居生活を少しでもご本人らしく過ごしていただければと考えております。また、コロナの中で全然出来ておりませんが、地域に開かれたグループホームになるよう、様々な取り組みをしたいと考えております。介護・福祉というフィルターを通すと、自分たちが(職員達)がされたら絶対嫌な事が、介護・福祉の現場で普通に行われていることに疑問を持ち、極力そうならない様に注意しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoyoCd=2297201002-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 8月 21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は「自立支援の実践」です。個々の職員の意識、理解度に差があるのが事実です。現在はその意識統一をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年の一月までは地域の防災訓練に参加したり、老人クラブの活動に参加したり、地域用に施設内覧会を開いたりしていましたが、それ以降コロナの影響で全然出来なくなりました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自体が認知症の人の理解や支援で日々模索している状態なので、地域には発信出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議自体が書面開催になっています。まずは通常の面会が出来るような状況になり、ご家族に事業所の活動を見ていただきたいと思います。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より浜松市介護保険課とは質問や相談を常に早目早目にしている。協力関係は築けていると思われます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として学ぶ機会は設けています。現在は各事業所をZOOMで繋げて勉強会を中継する取り組みを行っている最中です。最終的にはいつでもどこでも勉強会の様子を見て、学ぶ状況を整備したいと思っております。玄関は日中は施錠しておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として学ぶ機会は設けていますが、事業所として勉強会等しておりません。今後の検討材料にしたいと思います。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として学ぶ機会は設けていますが、事業所として勉強会等しておりません。今後の検討材料にしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者、施設ケアマネ二名で対応し、不安や疑問に丁寧に回答するよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	形だけの運営推進会議でなく、家族・利用者・外部見識者とじっくり意見できるような運営推進会議を行いたいです。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案はとても多く助かっている。特別な機会を設けなくても業務内で意見・提案を聞ける環境があるので、継続したいと思います。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今月より法人としてキャリアアップ制度を導入しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月二回内部研修を行っている。外部研修の宣伝等ある場合は希望者を募り、積極的に行ってもらっています。シフト調整や資金援助も行っております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナの関係で交流・見学は出来ておりません。去年代表者自ら他施設に見学に行き、その後職員を見学する機会がありました。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とにかく安心してもらおうという気持ちで接してもらっています。ここにはタイムスケジュールに則った「業務」はあまりありません。その分入居者様とのコミュニケーションの時間は取れていると思います		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して頂いた後、入居者様のことでわからない事が多々あるので、積極的にご家族にコンタクトをとって情報収集をしております。その際、御家族との関係性が構築されてくると考えております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やれることは最大限やっているつもりですが、ご本人にフィットする支援の見極めがどれくらい出来ているのか、今後の検討材料だと考えております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ていない職員もいますが、自立の支援が使命なのでご自分で出来ることは極力して頂きます。そのため暮らしを共にする者どころか入居者様が先生、職員が生徒という場面に頻りに遭遇します。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ごとに様々な事情があるので均一にはありませんが、入居者様、御家族、と共に悩み、考えるスタンスは持っているとと思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	管理者の判断でドライブに行き入居者様のご自宅にいたり、地域にたびたび行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状により暴言を吐いてしまったり、誤解を招くような発言をしてしまう方もいますが、そういう方がなるべく孤立しないよう職員達が奮闘しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから法人関連施設に移動した入居者様がいますが、移動先の施設に行き顔をみたり、御家族に様子を報告したりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いを面接で希望や意向を聞いています。ご家族にも話を伺っています。ご本人の表情を見て安心できる時間の過ごし方や好きな事、得意な事等を検討しプランニングにいかしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問にて、入居者様、ご家族に伺ったり、「暮らしのシート」という独自のフォーマットをご家族様に記入して頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎ時に入居者様の変化と対応を管理者、ケアマネが参加し話し合います。引継ぎ内容はケース及びノートに記録し共有します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員の情報やご本人・ご家族の希望をききケアマネが立案し、ご家族に提示、承諾を得ています。また訪問看護師や主治医の見解も参考にしてプランに行かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫をケース記録として入力しているものの、分析し次のプランへの情報として生かすことが出来ないのが現状です。情報の共有もまだまだ改善の余地があります。一番の改善点としてとらえています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談して、外出・外泊をしたりしています。またコロナ禍でビデオ通話を使っての面会や屋外による面会を実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防訓練やイキイキサロンに参加しております。将来的には地域清掃や神社・公園の美化活動が出来るような体制づくりを目指したいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の診療所をかかりつけ医としています。通院援助をし、日頃の様子を職員が伝えます。ご家族が希望される他科受診についてはご家族にご協力頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回(一回2時間程度)訪問看護ステーションに入ってもらっております。職員からの気になる入居者様の相談を受けて頂き、様々なアドバイスや受診の必要性の有無の助言を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院に情報提供をしております。治療が円滑に行われるよう、管理者・ケアマネが協力してご家族と病院関係者との調整を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設で出来る医療的ケアな終末期の対応について説明し、家族の意向を確認しております。今現在はまだ例がありませんが、かかりつけ医の往診や訪問看護師との連携は取れる状態にあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応の研修は行ったが定期的には出来ていません。現状としては昼夜を問わず管理者に連絡し指示を仰いでいる状況です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の各地の水害を見ていると、避難方法の全面的な見直しが必要だと思います。地域との協力体制の構築もまだ出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソン・センタードケアを軸に職員教育をしています。ですがやはり職員ごとにその理解や実践にばらつきがあります。ZOOMを使った研修を積極的におこない、言葉掛けが如何に重要かということを伝えたいと思います。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの提案もありますが、入居者様との会話して色々なニーズを聞き、ご本人に決めて頂けるよう努めております。聞きっぱなしでなんの実現もされないということにならないよう気を付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	三食のおおよその時間は決まっています。それ以外は決まっておりません。比較的入居者様のペースで過ごして頂いているのではとっております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	母の日、クリスマス会、敬老会等でご家族からプレゼントされた衣服や小物を身に付けてもらったり、職員が入居者様にマニキュアを塗って差し上げたりします。もちろん決めるのはご本人です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は盛り付けから調理はしておりません(ご飯と汁のみ)。準備・片付けを入居者様が出来る範囲でやって頂いております。時には我慢できずつまみ食いする方も。それもよしと楽しくやっております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後チェックしております。散歩や活動ばひと段落するたび水分補給をお願いしております。また法人内の管理栄養士に食形態やカロリー数の相談をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	大きな課題の一つです。 現在自室にて歯磨きをしている入居者様が多いので観察の仕方の工夫が必要です。 現在は訪問歯科に入ってもらい指導して頂いております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室ごとにトイレはなく、ユニットごとに3箇所トイレがございます。トイレに行くにも一歩でも歩いてもらいたいとの思いです。日常の活動量をあげて腸の活動を活性化できないかと考えております。一人でも多くの方に布パンツで過ごして頂けるよう模索しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯を炊くときに毎回麦を入れております。管理栄養士と食物繊維を摂取できるよう相談しております。ですが半数前後の入居者様が下剤をつかっているのが現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に予定されている入浴日には強制的にでも入浴をさせるようなことはしていません。拒否が強い入居者様には時間をずらして2度、3度と声掛けをしております。諦めることなく関係性の構築を続けます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンという仕組みを導入しており、夜間帯の1、2時間ごとの見守りはしておりません。安眠を確保する取り組みと考えております。また食後はソファーでうたた寝をされる方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携して服薬管理ロボットという仕組みを導入しております。薬剤師が薬のセットをするので、職員の精神的な負担を軽減できていると考えております。職員はお薬手帳を見て1人1人の薬情報を把握しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今現在女性の入居者様のみのせいか、酒やたばこを欲する方はおりませんが、当施設は酒もたばこも禁止していません。また可能な限り日常の家事に参加して頂いております。また借りている畑の収穫物を使って料理をしてもらい職員も含めご相伴にあずかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩は積極的に行っております。入居者様の様子を見て管理者の判断で、ご自宅までドライブにいき、ストレスを発散してもらっています。散歩中こちらから積極的に挨拶をしているので、徐々に地域の方に認知されてきた気がします。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの財布をみなさんお持ちなので、近くのドラッグストアにいき、好きなお菓子を買ったりしてしていました。現在はコロナの関係で買い物は中止しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話をしてもらっております。最近ではLINEをつかったビデオ通話面会も。自分で作った手芸品を手紙を添えてご家族に送る方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに建具・家具の色が違います。2ユニットのリビングとウッドデッキを合わせてひとつもリビングと考えております。出入りは自由です。日中はBGMを流しており、またアロマディフューザーで香りも癒しにあればと思っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きめのリビングテーブルがある一方、一人用に出来る小さなテーブルが3台ずつあります。一人で作業に集中したい方は一人用を使ったり、柔軟に対応しております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェストは施設として用意しました。ベッドはレンタルを使うかたが多いですが、これまでの生活が布団の方は持ち込んで使って頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別な建物内部となつてはおりませんが、入居者様の状況を見て、貼紙をはってご本人の部屋を認識してもらったり、ここがトイレだと分かるようにしております。		